

JIS

プラスチック－屋外暴露試験方法－ 第 1 部：通則

JIS K 7219-1 : 2011

(JWTC/JSA)

平成 23 年 12 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 化学製品技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	土 肥 義 治	独立行政法人理化学研究所
(委員)	井 上 進	一般社団法人日本化学工業協会
	今 井 勇	日本ゴム工業会 (株式会社ブリヂストン)
	植 田 新 二	一般財団法人化学物質評価研究機構
	大 石 奈津子	財団法人日本消費者協会
	香 山 茂	財団法人化学研究評価機構
	佐 藤 浩 昭	独立行政法人産業技術総合研究所
	高 橋 俊 哉	社団法人日本塗料工業会
	田 和 健 次	石油連盟
	仲 田 正 徳	独立行政法人住宅金融支援機構
	橋 本 隆	公益社団法人自動車技術会 (日野自動車株式会社)
	堀 友 繁	一般財団法人バイオインダストリー協会
	松 永 孝 治	日本プラスチック工業連盟
	松 永 直 樹	拓殖大学
	森 川 淳 子	東京工業大学

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 23.12.20

官 報 公 示：平成 23.12.20

原 案 作 成 者：財団法人日本ウエザリングテストセンター

(〒105-0011 東京都港区芝公園 1-3-7 TEL 03-3434-5528)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 稲葉 敦)

審議専門委員会：化学製品技術専門委員会 (委員長 土肥 義治)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 原理	3
5 試験装置	3
5.1 屋外暴露試験装置	3
5.2 気象因子の測定装置	3
6 試験片	5
6.1 作製方法	5
6.2 試験片の数量	5
6.3 状態調節及び保存	6
7 試験片の暴露条件	6
7.1 気候区分	6
7.2 暴露の種類	6
8 暴露ステージ	7
8.1 一般的条件	7
8.2 暴露期間	7
8.3 太陽放射露光量	7
9 手順	8
9.1 試験片の取付け	8
9.2 参照材料の取付け	8
9.3 気象観測	8
9.4 試験片の暴露	8
9.5 特性変化の測定（要求があれば）	8
10 試験結果の報告	9
10.1 特性変化の測定	9
10.2 暴露ステージの水準	9
10.3 気象条件	9
11 試験報告書	9
附属書 A（参考）気候区分	11
附属書 JA（参考）JIS と対応国際規格との対比表	14
解 説	16

まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、財団法人日本ウエザリングテストセンター (JWTC) 及び財団法人日本規格協会 (JSA) から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。これによって、**JIS K 7219:1998** は廃止され、その一部を分割して制定したこの規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS K 7219 の規格群には、次に示す部編成がある。

JIS K 7219-1 第 1 部：通則

JIS K 7219-2 第 2 部：直接暴露試験及び窓ガラス越し暴露試験

プラスチック－屋外暴露試験方法－第 1 部：通則

Plastics－Methods of exposure to solar radiation－Part 1: General guidance

序文

この規格は、2009 年に第 1 版として発行された **ISO 877-1** を基に、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。変更の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

ISO 877 は、次の各部で構成されている。しかし、第 3 部については試験を実施するための気象条件（年間日照時間が 3 500 時間以上、日中の平均湿度が 30 %以下を推奨）を日本国内で得ることがほとんど不可能なので、日本工業規格として制定しない。

- － Part 1: General guidance
- － Part 2: Direct weathering and exposure behind window glass
- － Part 3: Intensified weathering using concentrated solar radiation

1 適用範囲

この規格は、プラスチックの屋外暴露試験方法の通則について規定する。この規格は、全ての種類のプラスチック材料、プラスチック製品及び製品の一部に適用する。この規格は、ブラックボックス暴露試験方法には適用しない。

注記 1 **JIS Z 2381**（参考文献[1]参照）に、ブラックボックス暴露試験に関する記述がある。

注記 2 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 877-1:2009, Plastics－Methods of exposure to solar radiation－Part 1: General guidance
(MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1**に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS K 7100 プラスチック－状態調節及び試験のための標準雰囲気

注記 対応国際規格：**ISO 291:1997**, Plastics－Standard atmospheres for conditioning and testing (MOD)

なお、**ISO 877-1:2009** では、**ISO 291:1997** の改正版 **ISO 291:2008** を引用しているが、引用事項において、**JIS K 7100** と技術的差異はない。

JIS K 7144 プラスチック－機械加工による試験片の調製